

平成 28年度 高松市事務事業評価表 (事中・事後評価)

事務事業名	駐輪場管理事業		
部 局 名	都市整備局	課(室)名	都市計画課
電話番号	087-839-2455		

【事業全体概要】まちづくりの目標：道州制時代に中枢拠点性を担えるまち

総合計画	政策	快適で人にやさしい都市交通の形成		主体	市
	施策	自転車利用の環境づくり		期間	平成 20年度～平成 27年度
	基本事業	放置自転車対策の推進		総事業費	596,443
重点取組項目				特定財源	国 県 市債 他
関連根拠法令等					
事業区分	自治事務	種別	事中・事後	一般	393,918
事業種類	単独				198,850

事業の概要  
自転車利用者の利便性を確保するとともに、放置自転車を減少させるため、自転車等駐車場の維持・管理を行う。

【事業の目的と指標】

対象	高松市が管理する有料自転車駐車場	対象指標名	
		高松市有料自転車等駐車場収容台数	
手段	自転車利用者の利便性の向上を図る	活動指標名	
		年間延べ営業日数	
意図	利便性の高い駐輪場を提供し、利用者の増加を図る	成果指標名	
		年間利用台数	
結果	自転車等利用者の利便性を向上させるとともに、放置自転車を減少させることで道路交通の円滑化を図る。	効率指標名	
		トータルコスト100万円当りの営業日数	

【指標値および事業費の推移】

指標名	単位	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	目標値	目標年度
対象指標	台	4,105	4,105	4,105	4,105	平成 27年度
活動指標	日	365	365	366	365	
成果指標	台	221,953	209,466	204,594	230,000	
効率指標	日	4.85	4.82	4.94	4.5	
トータルコスト	[千円]	75,070	75,875	74,048		
(事業費)	[千円]	70,726	71,446	69,442		
(職員人件費)	[千円]	4,344	4,429	4,606		

【環境変化等】

開始時周辺環境(背景)	現状周辺環境	今後周辺環境(予測)	住民意向分析
駐輪場が不足し、放置自転車があふれていた。放置自転車対策として民間駐輪場の支援と公共による駐輪場の設置が望まれていた。	市中心部駅周辺の有料駐輪場はほぼ整備を終えている。その他の鉄道駅周辺についても順次整備している。	今後、未整備箇所の解消を行うとともに、老朽化により改修を必要とするものに取り組む。	駐輪場の充実・確保が望まれている。

【妥当性評価】

1. 事業の実施主体として市の関与は妥当か
A 法令等により市が実施しなければならない 市中心部における大規模駐輪場は、設備投資に多額の経費を要するなど、採算の面から民営化は難しい。
2. 事業の上位目標である施策に貢献しているか
A 貢献度が大きい 主要な放置自転車対策として、その削減に貢献している。
3. 成果を上げるため、またコストを削減するため、対象あるいは意図（目指す状態）を拡充・縮小する必要があるか
B 必要性は中程度 指定管理者と協力して経費縮減に努める。
4. 事業を廃止・休止した場合に影響があるか
A 影響は大きい 駅周辺の路上などに放置自転車があふれ交通に支障をきたす。
5. 市民協働の実施状況はどうか（どのような市民参画・市民活動との連携等を実施したか）
B 事業にNPO、市民団体等が参画している 無料駐輪場で市民ボランティアによる自転車整理・清掃等を行っている。

【有効性評価】

6. 事業の成果（成果指標値）を向上させる余地はあるか
B 向上余地が考えられる（中小程度） 広報等により駐輪場利用の促進を図る。
7. 事業執行上の見直しを行ったか（昨年度何か業務の見直しを行ったか）
A 実施済み/実施する必要がなかった 指定管理者の変更により委託料の削減を図った。（H23年度）
8. 成果目標値に対する実績値（達成度）はどうだったか
C 概ね達成できた 平成26年3月に天満屋が撤退し、瓦町地下駐輪場の利用者数は減少したが、概ね達成できている。

【効率性評価】

9. 成果を達成するための活動量（活動目標値に対する実績値）はどうだったか
B 目標どおり達成できた 年間を通して、駐輪場の営業を実施した。
10. コスト縮減ができたか
D 縮減できなかった 指定管理者制度の導入により、コスト縮減に努めている。

【一次評価】

評価区分	継続																
本事業は、放置自転車対策に加え、公共交通の利用促進など、自転車を利用したまちづくりに重要な事業であることから、事業を継続する必要がある。																	
改革案																	
内容	期待効果																
広報・周知により利用促進を図るとともに、コスト縮減に努める。	<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td rowspan="2">向上</td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	成果	向上	コスト			削減	維持	増加	維持				低下			
成果	向上			コスト													
			削減	維持	増加												
	維持																
低下																	
	阻害要因																

【二次評価】

評価区分	継続
本事業は、自転車利用者の利便性を向上させ、交通の円滑化を図るものであり、自転車を利用したまちづくりを進めるためには、事業の継続は妥当である。	